

令和5年度学校評価計画書

学校名（阿品台東小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策	
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析			
基礎・基本の定着	◎基礎学力の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての児童が参加し、分かる授業づくり (UD)</li> <li>個に応じた課題や支援)</li> <li>デジタルドリルの効果的活用</li> <li>スクリーニングテストによる実態把握</li> <li>地域学校協働本部と連携した放課後学習の実施</li> <li>家庭学習による既習事項の定着の促進 (自由課題・進捗 等)</li> </ul>	☆廿日市市学力定着状況調査 (4年・1月実施) にあわせて全学年実施する標準学力調査 (国語・算数) の結果、ステップ (到達度) 1・2 の割合。(中学校区共通) ☆学期末単元テスト (国語・算数) の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の結果、学級平均の結果が期待平均値を上回った学級数。	国語 30% 未満 算数 20% 未満 6/11 学級	—	国 9/11 算 6/11	—	121%	A	・期待平均値を上回ったクラスは、国語は9クラス、算数は6クラスだった。細かく見ると、国語の「知識・技能」は8クラス、「思考力・判断力・表現力」は9クラスと国語の両方の観点とも目標値を超えていた。また、算数の「知識・技能」は9クラス、「思考力・判断力・表現力」は3クラスと特に算数の「思考力・判断力・表現力」に課題があった。基礎的な技能身に付いているもの、適切に活用する力を身に付けられるように、ICT 機器等を活用するなどしてアウトプットする機会を意図的に設けていく。	・子供たち主体の活動に積極的に取り組むことが大切。・子供同士の関わりの中で成長できる支援をしてほしい。 ・自分で考え自分で判断する力が今の社会では求められている。社会の法律に照らし合わせながら指導することも重要である。	・算数の「思考力・判断力・表現力」を伸ばすため、アウトプットする機会を意図的に設ける。(ペアやグループで自分の考えを表現する場を増やす)
主体的に課題解決をする児童の育成	自分で考え自分から取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考え・進んで取り組む授業づくり (UD・指導者のファシリテート)</li> <li>主体的・対話的な学びに向けたタブレット活用</li> <li>児童主体の課題設定・解決を取り入れた総合的な学習の時間</li> <li>代表委員会や委員会活動による、児童主体の活動の充実 (学校をよりよくする運動 等)</li> <li>生活きり週間による生活習慣の見直しと取組</li> </ul>	☆全国学力・学習状況調査質問紙「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合」 【市共通項目】 ☆児童アンケート「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいる。」※よりよい自分になるために自分が決めた夢や目標に向かっていろいろなことにチャレンジしている。(アンケート問6) 「生活課題を自分で考え、取り組むことができた。」9月実施予定	85%  75%  70% 9月	71.1%	83%	83%	110%	B  A	・全国学力の質問紙では昨年度の66%から5%程度向上している。児童が必要感のある活動を仕組んだり、主体的に学習に臨めるような自己決定の場を設けたりする等、児童主体の様々な活動を取り入れていく。	・自分で考え自分で判断する力が今の社会では求められている。社会の法律に照らし合わせながら指導することも重要である。	・児童にとって必要感のある単元づくりや課題設定をしたり、自己決定の場を設けたりする。 ・9月の身体測定時に生活リズムの大切さについて保健指導を行う。
自己有用感の育成 (中学校区共通)	◎「つながり」の主体化・日常化を図る。	○児童の主体的活動の工夫・充実 ・児童の意見を取り入れ、日常的な取組 ・ピア・サポートの活動 (行事、学習) ・ひがしみつけ (放送、掲示で知らせる) ・縦割り掃除 (気づき掃除、掃除名人の表彰等) ○居場所感を高める取組の導入 ・安心できる学級づくりの理論研 ・適応間尺度 (アセス・居場所感) を反映した取組や活動の創造	☆児童アンケート「自分のよさは周りの人から認められている。」 ※アンケートの文言「自分はまわりの人の役に立っていると思います。」 ☆児童アンケート「いつでも自分らしくいられる。」 ※アンケートの文言「自分にはよいところがあると思います。」	80%  80%	76%	83%	95%	103%	B  A	・学級での係活動、異学年によるピアサポート活動、清掃活動、高学年の委員会活動などで自分の役割を行い、振り返りを行うことで互いの良さを認め合う活動を行っている。ひがしみつけなども含め、自分のよさに気付けるよう、内容の充実を図っていく。	・決まった人と決まったことを決まった遊びの中ですることが多いため、ピアサポートの取組は大変良い。	・シークレットひがしみつけ、ピアサポート活動を生かした行事、掃除 MVP など活動に変化を持たせる。また振り返りを大切に、仲間との関わりの中での自分のよさに気づけるようにする。 ・中村先生の研修を通して、児童一人一人が自分の居場所を認識できる学級づくりを目指す。
健康的な生活と運動への関心の向上	体を動かすことが楽しいと感じる児童の育成	○年間を通した体を動かす活動 (体力づくり) ・学級遊びや縦割り・全校遊び等の取組 ・児童主体の体を動かすイベント (学期に1回) ・体育の授業における工夫 (自己決定の場と教え合いの場)	☆児童アンケート「外で運動したり遊んだりしています」(アンケート問11)	80%	82%	—	102%	A	・1学期は運動会をとおして体を動かす楽しさを味わった。2学期は縄跳び大会を計画している。 ・体力づくり推進通信「どどんぱ」を発行し、体育授業の改善のヒントを教職員で共有できるようにしている。 ・夏休み中に体育の実技研修を行い、体を動かすことが楽しいと感じる授業のヒントを学んだ。	・先生方の夏休みの研修が充実していると感じた。 ・子供たちの自己有用感を育むために地域で支えていきたい。	・2学期、保健体育委員会が企画した、全校遊びをし、外遊びを楽しむ。	

教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	◎子供と向き合う時間の確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイティブデーの充実</li> <li>・定時退校日の設定</li> <li>・会議の事前の時間設定（資料の事前配布含む）</li> <li>・プロジェクトチームによる業務改善</li> </ul>	☆教職員アンケート 「子どもと向き合う時間が確保できていると感じる。」	80%	65%		81%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイティブデーを設定したり成績処理期間に児童の下校時刻を早めたりして業務時間の確保に努めたが、子供と向き合う時間を確保できたと感じている教職員は少ない。時間的な削減よりも生徒指導事案等を減らすことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導は未然防止が重要になる。担任だけではなく、多数の教職員で普段からかわりをもってほしい。</li> <li>・先生方のエネルギーが教材研究等に迎えるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと向き合う時間というのはどういうことなのか職員の意識を変える必要がある。向き合う時間と業務改善の関係がよくわからないままアンケートに答えてしまっている懸念がある。</li> <li>・クリエイティブデーの日に、完全下校時刻を30分くらいずらし、放課後の時間を作る。下校してもいいし、先生とゆっくり話をしてもいいフリーの時間を設けることで子供と向き合えるのではないかと思う。</li> </ul>
開かれた学校づくりに努め、家庭・地域との協働・信頼関係を構築する。	地域への関心と愛着を持たせる教育活動を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域への迅速かつ適切な対応</li> <li>・コミュニティースクールの活性化</li> <li>・通信、HPによる情報発信</li> </ul>	☆保護者アンケート 「学校の取組に満足している。」	90%	93%		103%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への満足度は目標値を超えている。生徒指導事案等保護者へ迅速に対応できたことが結果に結びついた。</li> </ul>		

- 短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して3項目以内とする。
- 重点目標を中心に「評価項目・指標」（めざす姿）を精選し、取組を進めること。
- 別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。（【市共通項目】⇒廿日市市教育委員会の重点施策）